

関係各位

兵庫県病虫害防除所長

令和7年度病虫害発生予報第3号を發表します。

令和7年度病虫害発生予報第3号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
水稻	いもち病（葉いもち）	平年並	平年並
	紋枯病	平年並	平年並
	縞葉枯病	平年並	平年並
	セジロウンカ	平年並	平年並
	トビイロウンカ	平年並	平年並
	ヒメトビウンカ	やや多	平年並
	ツマグロヨコバイ	平年並	平年並
	斑点米カメムシ類	多	やや多
	イネツトムシ	平年並	平年並
	フタオビコヤガ	平年並	平年並
コブノメイガ	平年並	平年並	
なし	ハダニ類	やや多	平年並
	アブラムシ類	平年並	平年並
	ニセナシサビダニ	平年並	平年並
野菜等共通	ハスモンヨトウ	やや多	やや多
	シロイチモジヨトウ	やや多	やや多
	オオタバコガ	やや多	平年並
	ハイマダラノメイガ	やや多	やや多
果樹等共通	果樹カメムシ類	平年並	平年並

太文字の病虫害:向こう1か月の間、発生状況に特に注意を要する病虫害を示す。

* 気象の概況

近畿地方 1か月予報
 (7月12日から8月11日までの天候見通し)

令和7年7月10日
 大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

近畿地方 1か月予報 (07/12~08/11)		
2025年07月10日14時30分 大阪管区气象台 発表		
特に注意を要する事項	期間の前半は、気温がかなり高い状態が続く見込みです。	
向こう1か月 07/12~08/11	天候	近畿日本海側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率70%です。
	降水量	降水量は、近畿日本海側で平年並または少ない確率ともに40%です。
	日照時間	日照時間は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%です。
1週目 07/12~07/18	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 07/19~07/25	気温	2週目は、高い確率60%です。
3~4週目 07/26~08/08	気温	3~4週目は、高い確率60%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	向こう1か月 07/12~08/11	
		1週目 07/12~07/18	
		2週目 07/19~07/25	
		3~4週目 07/26~08/08	
降水量	近畿太平洋側	向こう1か月 07/12~08/11	
	近畿日本海側	向こう1か月 07/12~08/11	
日照時間	近畿太平洋側	向こう1か月 07/12~08/11	
	近畿日本海側	向こう1か月 07/12~08/11	

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

根拠中の記号

- (+) : 発生量を多くする要因
- (-) : 発生量を少なくする要因
- (±) : 発生量が平年並になる要因

水稻

1 【いもち病（葉いもち）】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並 (±)
 気象予報 気温は高い (±)
 降水量は平年並 (±)
- (3) その他
 5月22日より7月31日まで、兵庫県病害虫防除所HPで、いもち病（葉いもち）の感染好適条件の出現状況をBLASTAM情報として提供している。

2 【紋枯病】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並 (±)
 気象予報 気温は高い (+)
 降水量は平年並 (-)

3 【縞葉枯病】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並 (±)
 気象予報 気温は高い (±)
 降水量は平年並 (±)
- (3) その他

本病害はヒメトビウンカによって病原ウイルスが媒介される。なお、対策についてはヒメトビウンカの項を参照する。

4 【セジロウンカ】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並 (±)
 気象予報 気温は高い (+)
 降水量は平年並 (±)

5 【トビイロウンカ】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並（発生見られず、予察灯への誘殺もなし） (-)
 気象予報 気温は高い (+)

6 【ヒメトビウンカ】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 平年並 (±)

気象予報 気温は高い(+)

(3) その他

ア ヒメトビウンカは、イネ縞葉枯病の媒介虫となるため、本病への対策としては本虫種の防除が重要となる。

イ 本田におけるイネ縞葉枯病の初期発病株（葉色が薄くなり巻いて垂れ下がる「ゆうれい症状」を表す）は、後期発病（出穂異常）の増加につながるので、速やかに抜き取る。

ウ 初期発病株が多数確認される場合は、後期発病を予防するため、本虫種に対して幼穂形成期までに本田防除を実施する。

エ 今年度の第1世代虫（コムギ採集個体）のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の調査結果については平均で0.9%、過去10年間と比べて最も低かった。しかし、保毒虫率が昨年と比べて高くなっている地点もあるので、今後の発生状況に注意する。各地域の保毒虫率については兵庫県病害虫防除所HPを参考とする。

オ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。

7 【ツマグロヨコバイ】

(1) 予想：発生量 平年並

(2) 根拠：発生現況 平年並、予察灯への誘殺はやや多い(±)

気象予報 気温は高い(+)

8 【斑点米カメムシ類】

(1) 予想：発生量 **多**

(2) 根拠：発生現況 **やや多**(+)

気象予報 気温は高い(+)

(3) 防除上の留意点

ア 畦畔や休耕田のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類を誘引し、増殖源となるため、適切な除草管理を行う。なお、出穂直前に畦畔の管理作業を行うと本種を本田内に追い込むことになるため、出穂の2週間以上前に雑草管理を行う。また、水田内のヒエ等の雑草についても本種の誘引源となるため、速やかに除去する。

イ 斑点米カメムシ類の薬剤防除は、穂揃い期から乳熟期にかけて行い、その後も発生が多い場合は7～10日間隔で1～2回の追加防除を行う。なお、粒剤を施用する場合は、防除効果が得られるまでに日数がかかることを考慮する。

ウ イネカメムシは他の斑点米カメムシ類と異なり、出穂直後から穂を加害して不稔穂を発生させるなど収量への影響が大きい。出穂期に水田内で発生が見られる場合は薬剤防除を検討する。本種の防除は、出穂期とその7～10日後の2回防除が不稔と斑点米の被害抑制に効果的である。周辺より出穂が早い、または遅い水田に集中して加害しやすい。また、本種は夜行性で、数日のうちに水田へ大量に侵入することがあるため、発生状況に十分注意し適期防除に努める。

エ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考

に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。

9 【イネツトムシ】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並（±）
気象予報 気温は高い（+）

10 【フタオビコヤガ】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並（発生見られず）（-）
気象予報 気温は高い（+）

11 【コブノメイガ】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並（発生見られず）（-）
気象予報 気温は高い（+）

なし

1 【ハダニ類】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 平年並（±）
気象予報 気温は高い（+）

(3) 防除上の留意点

ア 早期発見に努め、早期の防除を実施する。

イ 農薬散布時は、薬液が茎葉に十分かかるように不要な徒長枝を剪去し、ていねいに防除する。

ウ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考にして、農薬使用基準を守る。また、同系統の薬剤の連用は避ける。複数回防除をする際は、IRACコードを参考に薬剤選定し、ローテーション防除を行う。

2 【アブラムシ類】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並（±）
気象予報 気温は高い（+）
降水量は平年並（±）

3 【ニセナシサビダニ】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並（±）
気象予報 気温は高い（+）
降水量は平年並～少ない（±）

野菜等共通

1 【ハスモンヨトウ】

- (1) 予想：発生量 **やや多**

- (2) 根拠：発生現況 フェロモントラップへの誘殺数は平年並～やや多い (+)
気象予報 気温は高い (+)
降水量は平年並～少ない (±)
- (3) 防除上の留意点
ア 本種の幼虫は、ピーマン、ナスをはじめ多くの野菜類を加害する。
イ 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたら、すみやかに捕殺する。
ウ 中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。
エ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針、防除情報等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。

2 【シロイチモジヨトウ】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 フェロモントラップへの誘殺数はやや多い～多い (+)
気象予報 気温は高い (+)
降水量は平年並～少ない (±)
- (3) 防除上の留意点
ア 本種の加害植物は、ネギ、キャベツ、ピーマン、ナス、をはじめ多くの野菜類のほか、豆類、花き類など広い範囲に及ぶ。
イ 本種は茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、定植直後の被害には特に注意する。
ウ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針、防除情報等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。
エ 防除についての詳細は令和7年度病害虫発生予察防除情報第6号（令和7年6月20日発出、<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1362>）を参考とする。

3 【オオタバコガ】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 フェロモントラップへの誘殺数は平年並 (±)
気象予報 気温は高い (+)
降水量は平年並～少ない (±)
- (3) 防除上の留意点
ア 本種の加害植物は、ピーマン、ナス、トウモロコシをはじめ多くの野菜類のほか、花き類など広い範囲に及ぶ。
イ 果実や花蕾に穿入した幼虫及び中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。
ウ 成虫の産卵、飛来防止による防除手法として、防虫ネット、黄色灯、性フェロモン製剤がある。
エ 薬剤防除は、病害虫・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。薬剤抵抗性回避のため、異なる作用機構の薬剤をローテーション散布する。

オ 防除についての詳細は令和7年度病虫害発生予察防除情報第5号（令和7年5月20日発出、<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1346>）を参考とする。

4 【ハイマダラノメイガ】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 誘致植物*（クレオメ）での発生量は**やや多**（+）
気象予報 気温は高い（+）
降水量は平年並～少ない（±）

*対象とする害虫が好む植物で、発生状況を調査するために用いられる。

(3) 防除上の留意点

- ア 本種はアブラナ科野菜を特異的に加害する。
- イ 幼虫が生長点を食害するため、発生を確認してからの防除では手遅れなため、育苗期や定植直後の予防的防除に努める。
- ウ 播種・定植時や育苗期に、粒剤や灌注で薬剤処理をした場合でも、その後の被害発生に注意する。天候等の条件により期待した防除効果が得られないこともあるので、本圃での薬剤防除の準備をしておくことが望ましい。
- エ 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針、防除情報等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。

果樹等共通

1 【果樹カメムシ類】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並（±）
予察灯への誘殺数は平年並～やや少、フェロモントラップへの誘殺数は平年並
気象予報 気温は高い（+）

(3) 防除上の留意点

- ア 無袋栽培の園地では、発生や被害を認めたら速やかに防除する。
- イ 有袋栽培であっても、果実の肥大時期には果実と袋が密着して外部から吸汁されるおそれがあるため、注意する。
- ウ 定期的に園を見回り、飛来状況の把握に努める。
- エ 薬剤防除は、病虫害・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。
- オ 防除についての詳細は令和7年度病虫害発生予察防除情報第2号（令和7年5月2日発出、<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1320>）を参考とする。

防除上の留意点に記載している内容のほか、兵庫県総合防除計画を参照してください。

* 兵庫県総合防除計画は以下のURLに掲載

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html>

* 病害虫・雑草防除指導指針 農薬の検索は以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/noyakusearch/hyogo>

* 病害虫・雑草防除指導指針 参考資料は以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

* この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載しています。

<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>

兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222

「兵庫県病害虫防除所」X(旧Twitter)にて情報発信中。

発生予察情報など病害虫に関する情報をいち早く

提供しますので、フォローをお願いします。

Xアカウント (https://twitter.com/hyogo_boujoshou)

